



# Daiwabo Planet

第104期 中間ビジネスレポート  
平成26年4月1日～平成26年9月30日



ダイワボウホールディングス株式会社  
代表取締役社長

阪口 政明

### グループ経営理念

私たちは、創造と革新、融合のシナジーによって、グローバル市場でお客様第一に新たな価値を生み出し、人間社会と地球環境に役立つ未来を実現します

### 中期経営計画「イノベーション21」

計画期間 平成25年3月期～平成27年3月期

経営基本方針

- シナジー効果による新市場・新事業の創出
- グループ協業体制によるグローバル戦略の推進
- 独自性と差別化の追求によるコーポレートブランドの強化

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、中間ビジネスレポートをお届けするにあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

### ■業績について

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が和らいだものの足踏み状態になりましたが、企業収益の改善による設備投資が堅調に推移し、景気は緩やかな回復軌道を辿りました。

このような情勢のもと、当社グループは中期経営計画「イノベーション21」の最終年度を迎え、「外部パートナーとの戦略的アライアンスの推進」「ソリューション型ビジネスへの転換」「コーポレートブランド展開の推進」を事業方針に掲げ、新たな成長モデルの確立と連結企業価値の向上に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,783億8千9百万円、営業利益は32億5千9百万円、経常利益は31億8百万円、四半期純利益は16億9千6百万円となりました。

### ■今後の見通しと取り組み

今後の経済見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善が進むなか景気回復が期待されておりますが、米国金融緩和縮小の影響や地政学的リスクなどによる海外景気の下振れが景気の下押し要因となり、依然として不透明な状況が続くものと推察されます。

このような状況を鑑みまして、株主の皆様には誠に申し訳ない次第ではありますが、中間配当は見送らせていただきましたので、なにとぞ格別のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

現在の事業を取り巻く環境は、市場の細分化により消費者の求める価値が多様化しており、単に顧客ニーズに対応するだけでは差別化商品を生み出すことはできません。既存の発想を超えたイノベーションによりニーズ自体を創出することが、今後のマーケティング戦略において重要になってまいります。

当社グループにおきましては、来年4月から始動する新中期経営計画を見据えて、さらなる収益基盤の拡大と財務体質の強化を図るため、中核3事業である「ITインフラ流通事業」「繊維事業」「産業機械事業」において、事業間の協業はもとより、同業他社や異業種とも連携を図り、新市場・新事業の創出に取り組んでまいります。

事業別の施策といたしましては、主力の「ITインフラ流通事業」では、クラウド・モバイルなどの成長市場において、豊富な販売パートナーと培ってきた地域密着ネットワークを活かして、顧客満足度を第一に、ハードとソフトの両面から商品・サービスの提供に努めてまいります。一方、「繊維事業」「産業機械事業」では、独自の開発力・技術力を武器に国内外における生産・販売拠点の有機的連携により、国際市場でのブランド力の強化とシェアの拡大を推し進めてまいります。

どうか株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 環境放射能対策・廃棄物処理国際展「RADIEX2014」に出展しました。

ダイワボウグループでは、「今こそ動く、未来を創る」をスローガンに、東日本大震災の復興支援を目的としたプロジェクトを立ち上げています。その一環として、「復興事業と連携した環境放射能対策へ!」をコンセプトに平成26年9月に東京、10月に福島で行われた「RADIEX2014」に、当社グループ製品を出展いたしました。国内外の企業の除染技術が一堂に会した同展示会には、合計9,616名の来場者があり、そのうち約220名の方にダイワボウ出展ブースをご訪問いただきました。出展ブースでは、汚染物質吸着機能のある多機能マスク「プルシアンガードマスク」、耐久性・高強度も備えた耐候性土のう袋「バオウ」、除染作業で排出された土砂や廃棄物を安全に搬送する「フレキシブルコンテナバッグ」、セシウムおよびストロンチウムを大気中から選択して吸着する物質を練りこんだ「レイキャッチ」など多彩なラインナップを揃え、復興支援への取り組みを紹介しました。本



多機能マスク「プルシアンガードマスク」

プロジェクトでは復興地域の現状に即した支援を行い、明るい未来の創造に貢献してまいります。

# ダイワボウグループの2014年上半期の主なニュースをお知らせします。

## ダイワボウ情報システム

### 「DISわあるどinおおいた別府」を開催

ダイワボウ情報システム株式会社は、平成26年7月16・17日の両日、大分県別府市においてIT関連商品の総合展示会である「DISわあるどinおおいた別府」を開催しました。過去最高の126社におよぶ協賛企業のご協力のもと、「次世代の暖簾をくぐり最新のIT巡り〜最先端のITテクノロジー&ソリューションが別府に集結!〜」をテーマに、2日間で合計1,483名の方にご来場いただき、会場にひろがる最先端のITテクノロジーやソリューションの提案を堪能してもらいました。一つでも多くの最先端製品を体感いただきたいという思いを込めて、開催日当日に発売したタブレットや、国内発売前のSIMフリー端末製品を展示するなど、様々な工夫を凝らした結果、来場者からも好評を博し、盛況のうちに閉幕を迎えることができました。

今後も地域に密着した活動を通してお客様のご要望にお応えし、需要の深耕と拡大に努めてまいります。



## 大和紡績

### 大和紡績ホームページをリニューアル

繊維事業会社を統括する大和紡績株式会社は、この度ホームページを大幅にリニューアルしました。トップページに「市場・分野」「用途」「取扱企業名」「製品名」の4つのカテゴリを構築することで、検索したい情報へより素早いアクセスを可能にする一方、モバイル端末(スマートフォン、タブレット等)の画面サイズに応じてレイアウトが変化する新しいデザインとしました。今後も、各繊維事業会社の最新の企業情報、製品情報をタイムリーに提供してまいりますので、是非ホームページ(URL <http://www.daiwabo.co.jp/>)をご覧ください。

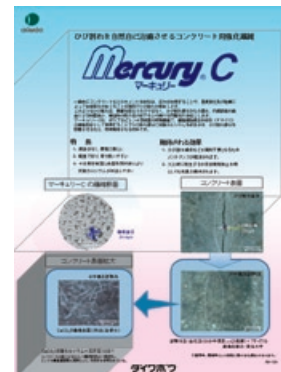


なお、ダイワボウホールディングス株式会社のホームページ(URL <http://www.daiwabo-holdings.com/>)には、「IR情報」や「ITインフラ流通事業」「繊維事業」「産業機械事業」の情報を掲載しておりますのであわせてご覧ください。(検索サイトで「ダイワボウ」と入力していただくと、どちらのホームページにも簡単にアクセスが可能です。)

## ダイワボウポリテック

### コンクリート用強化繊維を開発

ダイワボウポリテック株式会社は、コンクリートのひび割れを自己治癒させるコンクリート用強化繊維「マーキュリー®C」を開発しました。コンクリートのひび割れは美観を損なうだけでなく、ひび割れ部分からの漏水、内部鉄筋の腐食による断面減少、構造物の耐久性低下などの様々な問題を引き起こします。これまでも、ひび割れ抑制のため短繊維を混入した繊維強化コンクリートは使用されてきましたが、自己治癒させる機能や概念はなく、ひび割れが発生すると補修作業が必要でした。同商品は、十字断面ポリプロピレン繊維より炭酸カルシウムが析出する機能によって、補修作業の軽減や火災時の水蒸気爆発防止効果も期待できます。また、平成26年9月28日から10月1日に東京で開催された「繊維学会70周年国際シンポジウム」の企業出展ブースでも注目を集め、平成27年度上半期からの販売を予定しております。



## オーエム製作所

### 長岡新工場増設

株式会社オーエム製作所は約14億円を投じ長岡工場に新工場棟を増設し、平成26年7月23日に竣工式を行いました。新工場棟は、長さ100m、幅25m、高さ25m・18mの2段で、テーブル径8mの超大型立旋盤も組み立てられる同社最大の組立専用工場となります。10月には、「環境・省エネ」「高機能・低価格」をコンセプトに開発された新製品「Neo(α)-10EXII型立旋盤」の内覧会を新工場棟で開催し、同製品の魅力を十分に知っていただくことができました。今後は米国を中心に需要拡大が見込まれるテーブル径3m以上の大型立旋盤の生産を拡大するとともに、工場内物流や生産工程の効率化、加工設備の更新を進め、生産性の向上と



リードタイムの短縮を図ることにより、低コストでの生産を実現し、さらなる受注拡大に努めてまいります。

Segment Information & Approach in the Future

ITインフラ流通事業

売上高

2,393億4,900万円



❖ 上半期の概況

法人向け市場は、前年から続いた旧OS搭載パソコンの更新需要が徐々に終息し、パソコンの出荷台数は第2四半期以降減少へと転じましたが、企業収益の改善により設備投資に持ち直しの動きがみられた通信事業者向けの受注増加等により首都圏を中心に売上が拡大しました。一方、個人向け市場では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減が一部みられましたが、専門店・量販店向け、Web販売事業者向けとともに前年同期を上回る実績となりました。利益面では、競争激化のため厳しい状況で推移しましたが、売上拡大により前年同期を上回る利益を確保することができました。

今後の取り組み

顧客・メーカーとの協業体制強化と地域密着営業の推進により、さらなる需要の深耕を図ってまいります。ディストリビューターとして中長期的な安定収益体制の強化のため、パソコン・タブレットを中心に国内マーケットのシェアアップを目指すとともに、更新需要が見込めるサーバーの販売促進に注力してまいります。また、成長分野である「クラウド」「サービス&サポート」「モバイル」を重点ビジネスカテゴリと位置づけ、通信事業やクラウド技術をはじめとする継続的な収益を得られるビジネスを拡大し、パソコン等に成長の見込める周辺機器・ソフトウェアを組み合わせ提供することで、付加価値商品の販売拡大による収益力強化を推進してまいります。

化繊・機能資材事業

売上高

193億1,600万円



❖ 上半期の概況

合繊部門では、原綿は衛生材用途が海外での旺盛な需要と国内での新規市場開拓により販売が拡大し、不織布製品も除菌関連を中心としたレーヨン系不織布と海外向けの拡販が進むコスメ分野が好調に推移しました。また、樹脂加工部門では、主力の重布関連に加え震災復興向けの関連商品や防災用途の製品販売が堅調に推移し、機能製品部門では、フィルター関連の販売が回復し伸びました。一方、レーヨン部門では、不織布用原綿は前年同期並みの収益を確保しましたが、衣料用機能性原綿は苦戦を強いられました。

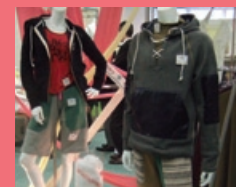
今後の取り組み

合繊部門では、主力の衛生材製品について、国内外における生産拠点の設備増強により原綿からの一貫生産体制の整備を推し進め、ジャパングオリティの高い評価を得て需要が急増しているアジア市場に向けて、確固たる生産販売基盤の構築に努めてまいります。また、レーヨン部門では、需要家のニーズを汲んだモノ作りを推進するため、ソリューション型の提案営業を強化するとともに、協力工場と連携した不織布展開など川下戦略を加速してまいります。さらに、機能資材部門では、震災復興関連の需要対応により社会貢献に努める一方、国内で培った開発力・技術力と海外事業ネットワークを融合させ、アセアン地域に向けての拡販活動に注力してまいります。

衣料品・生活資材事業

売上高

105億1,000万円



❖ 上半期の概況

カジュアル製品では、自家素材を活用した企画提案型ビジネスにより受注が増加し、機能製品では、独自原料を活用した機能素材やスキンケア関連の販売が拡大しました。また、ブランド製品では、スポーツ衣料を中心に好調に推移し、インナー製品では、不採算商品からの撤退により利益面で改善をみました。一方、テキスタイル部門では、衣料用・寝装用ともに前年同期並みの収益を確保しましたが、ホームホビー関連が振るわず、海外紡績部門でも収益の改善には至りませんでした。

今後の取り組み

ポリプロピレンや機能レーヨンをはじめとするグループ各社が持つ独自素材や、産学協同研究で培ったフタロシアニン加工などの独自技術を基としたファイバー戦略を推進し、付加価値の高い非競合商品の拡充を図り、コモディティ商品からの転換を進めてまいります。また、グループに加え産学や競合他社との連携を強化し、当社グループの持つ独自素材・加工のさらなる用途開発を推し進めるとともに、世界に向けてオールジャパンでの新市場の創造に取り組んでまいります。さらに、海外生産拠点の再編により特殊原料・加工に対応した高付加価値品の縫製体制を構築する一方、大和紡績香港有限公司を基盤にアセアン地域から欧米市場に向けて輸出の拡大を図ってまいります。

工作・自動機械事業

売上高

66億5,000万円



❖ 上半期の概況

工作機械部門では、主力の立旋盤について、国内では航空機・鉄道・バルブポンプ分野を中心に、海外では米国のオイル・ガス分野を中心に売上が拡大する一方、生産面では、平成26年7月に長岡工場の新組立工場棟を完成させ生産能力の拡充を図りました。自動機械部門では、医薬品関連の見本市(インターフェックスジャパン)に最新型のスマートカートナーを出展するなど、医薬品業界を中心とした拡販により収益が改善しました。

今後の取り組み

工作機械部門では、好調な米国市場において新たな販売会社を設置し、従来からのオイル・ガス分野に加え、東部地区や西部地区の航空機や重電関連の企業へ拡販を進め、中国市場では新たに開設した上海のショールームを活用した営業活動に注力する一方、国内市場では好調な航空機分野や需要回復が見込まれる重電分野の販売を強化してまいります。自動機械部門では、引き続き医薬品業界を中心に拡販を進めてまいります。また、グループ企業や外部パートナーとの協業関係を強化し、新製品開発、新規事業の開拓を推し進めてまいります。

Consolidated Financial Statements

❖ 四半期連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	145,539	188,333
固定資産	67,370	67,385
有形固定資産	45,858	45,179
無形固定資産	10,176	11,225
投資その他の資産	11,335	10,980
資産の部合計	212,910	255,718

**POINT 1** 資産の部

資産の部は、受取手形及び売掛金の減少等により前期末と比較し428億8百万円減少の2,129億1千万円となりました。

**POINT 2** 純資産の部

純資産の部は、利益剰余金の増加等により前期末と比較し11億4千6百万円増加の500億8千4百万円となりました。

科目	当第2四半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	121,410	162,772
固定負債	41,415	44,007
負債の部合計	162,825	206,780
<b>純資産の部</b>		
株主資本	50,663	50,047
資本金	21,696	21,696
資本剰余金	7,887	7,887
利益剰余金	21,706	21,178
自己株式	△ 627	△ 716
その他の包括利益累計額	△ 1,089	△ 1,561
その他有価証券評価差額金	1,154	850
繰延ヘッジ損益	132	10
為替換算調整勘定	△ 2,105	△ 2,042
退職給付に係る調整累計額	△ 271	△ 379
少数株主持分	510	452
純資産の部合計	50,084	48,938
負債・純資産の部合計	212,910	255,718

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

❖ 四半期連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
売上高	278,389	273,273
売上原価	255,052	250,927
売上総利益	23,336	22,345
販売費及び一般管理費	20,077	19,993
営業利益	3,259	2,352
営業外収益	464	469
営業外費用	615	608
経常利益	3,108	2,212
特別利益	—	296
特別損失	0	4
税金等調整前四半期純利益	3,107	2,504
法人税、住民税及び事業税	1,092	1,302
法人税等調整額	302	△ 18
法人税等合計	1,394	1,283
少数株主損益調整前四半期純利益	1,713	1,220
少数株主利益又は少数株主損失(△)	16	△ 25
四半期純利益	1,696	1,246

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

❖ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,954	△ 3,315
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,660	△ 2,129
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,518	2,090
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 56	197
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,719	△ 3,156
現金及び現金同等物の期首残高	9,095	11,244
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,814	8,087

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

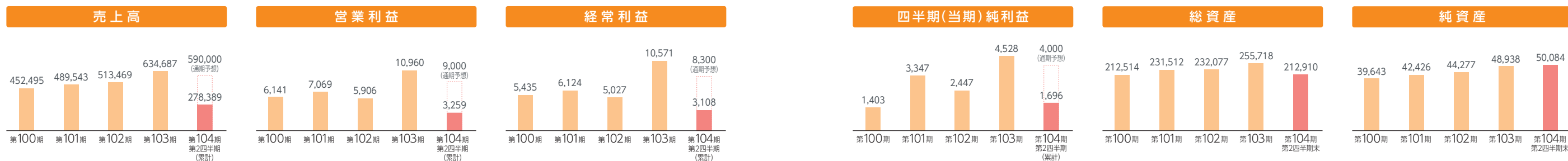
**POINT 3** 売上高

売上高は、ITインフラ流通事業における法人需要の増加等により前年同期と比較し51億1千5百万円増収の2,783億8千9百万円となりました。

**POINT 4** 利益

売上拡大による増収効果などにより、営業利益は前年同期と比較し9億7百万円増益の32億5千9百万円、経常利益は同8億9千6百万円増益の31億8百万円、四半期純利益は同4億5千万円増益の16億9千6百万円となりました。

❖ 連結財務ハイライト (単位：百万円)



(注) 第100期の平成23年3月29日付で株式会社オーエム製作所を連結子会社といたしました。

Stock Information／Corporate Information

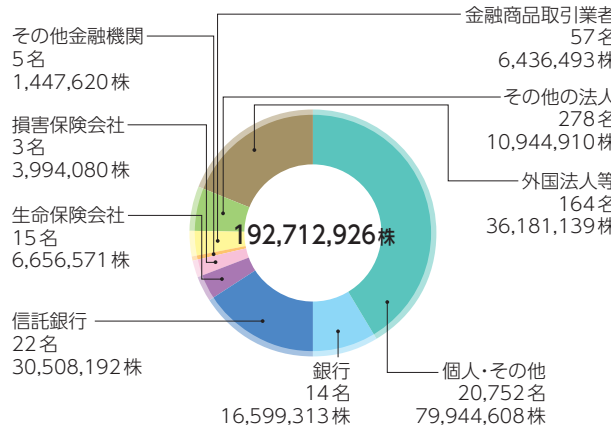
株式の状況

(平成26年9月30日現在)

- ◆ 発行可能株式総数 — 400,000,000株
- ◆ 発行済株式の総数 — 192,712,926株
- (注) 上記のうち248,527株を自己株式として保有しております。
- ◆ 株主数 — 21,310名
- ◆ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,161
ダイワボウ従業員持株会	5,057
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,046
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,893
河合 裕	4,254
第一生命保険株式会社	4,000
日本スタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口・75498口)	3,884
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,172
株式会社山陰合同銀行	3,136
ザチースマンハッタンバンクエヌイロンドンエスエルオムパスアカウント	3,066

所有者別株式分布



会社概要

(平成26年9月30日現在)

社 名 ダイワボウホールディングス株式会社  
 資 本 金 21,696,744,900円  
 創 立 日 昭和16年4月1日  
 事 業 拠 点 本社  
 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号  
 御堂筋ダイワビル (〒541-0056)  
 TEL.06-6281-2325

東京事務所  
 東京都中央区日本橋富沢町12番20号  
 日本橋T&Dビル (〒103-0006)  
 TEL.03-4332-8221

ジャカルタ事務所  
 Wisma GKBl. 6th Floor  
 Jl. Jenderal Sudirman No.28 Jakarta 10210 Indonesia  
 TEL. +62-21-57952235

連結従業員数 6,429名

役 員	代表取締役社長 社長執行役員	代表取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員	取締役 専務執行役員																									
	阪 口 政 明	北 孝 一	野 上 義 博	大 森 博	安 永 達 哉	門 前 英 樹	山 村 芳 郎	佐 脇 祐 二	平 田 知 之	金 屋 悦 二	寺 口 功 一	藤 木 久	澤 田 真 史	西 村 幸 浩	佐 藤 祐 次 郎	太 田 克 則	辰 巳 敏 博	常 石 茂 樹																											

Daiwabo Group



(平成26年10月1日現在)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.daiwabo-holdings.com/ir/publication/index.php">http://www.daiwabo-holdings.com/ir/publication/index.php</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本店でもお取次ぎいたします。

## ホームページのご案内

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、IR情報や会社情報、製品情報など様々な情報をご案内しております。

<http://www.daiwabo-holdings.com/>

